

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 29 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530943

研究課題名(和文)高度実践型を指向する教師教育システムと内容・方法に関する実証的日中比較研究

研究課題名(英文)a comparative study of teacher education on students practicum

研究代表者

坂井 俊樹(SAKAI, TOSHIKI)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：10186992

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では日本と中国の比較研究を軸にしながら、教師教育における実践力強化の在り方を検討することを目的とした。中国を比較対象としたのは、現代中国における研究的師範大学(国家教育部直轄の6大学等)において重点的に行われている教員養成ならびに現職教員研修システムの革新はめざましいものであることが具体的にわかった。とりわけ東北師範大学の教師教育研究学院を中心にした高度実践型で専門職的な教師育成をめざすプロジェクトの推進は、社会変化が激しい知識基盤社会における教師の養成と研修のための体系と内容・方法の研究・開発にあたっては示唆に富むものであった。

研究成果の概要(英文)：We examined a comparative study on teacher education between Tokyo Gakugei University and North East Normal University(NENU) in this study. We were able to clarify that University-Government-Schools(U-G-S) project at NENU give very useful ideas for reform a student practicum in Japan concretely. Recently North East Normal University(one of 6 universities in China under the direct control of the Ministry of Education) have been intensively carried out in students practice system as well as the innovation of teachers training system in modern China, there was a remarkable thing. Especially the promotion of U-G-S projects aimed at professional teacher education at the North East Normal University were very important in cooperation between the Board of Education and the university for developing of system, content and methods at school education.

研究分野：社会科教育

キーワード：教員養成 教師教育 教育実習 教員養成カリキュラム 教育委員会 連携 日中比較

1. 研究開始当初の背景

日本の教員資質向上策においては、実践的指導力の向上が絶えず焦眉の課題とされ、教員養成教育を提供する各大学で、教育実習や教育フィールド体験を含むプログラムの充実や、それに関わっての大学と学校現場や地方教育行政の連携の充実が見られる。しかし教員養成・免許制度の大幅改革が指向されている状況ではあるが、実践的指導力育成の前提となる学校教育現場、教育委員会とのパートナーシップの在り方に関する構造的な問題を研究的に析出することはいまだ充分とはいえない状況にある。ここで言う構造的な研究とは、現在の教育実習が教員免許取得のための1つの単位・要件であることに対して、教員養成における教職原体験となる教職科目領域であるとともに、学校や地域での教育課題解決にあたっての中核となる専門職性育成(質保証)とはどうあるのかという検討の必要性を究明することである。

こうした中で、本研究では日本と中国の比較研究を軸にしながら、教師教育の実践力強化の在り方を検討することを企図する。というのは中国における研究的師範大学(国家教育部直轄の5大学等)において重点的に行われている教員養成ならびに現職教員研修システムの革新はめざましいものがあり、とりわけ東北師範大学の教師教育研究学院を中心に高度実践型で専門職的な教師育成をめざすプロジェクトが推進されてきており、それは知識基盤社会における教師の養成と研修のための体系と内容・方法の研究・開発にあたっては示唆に富むものであるからである。

このような教師教育に関する日本での国際比較研究は、両国の研究者集団(学会レベル)における研究交流や情報交換、各大学(研究機関)間での学术交流、学生交流、

両国の研究者の個人レベルでの研究交流等においてなされているが、大学と教育実習校・教育委員会との関連に立ち入っての実践性・実証性と関連性・総合性という点では充分なものとはいえない。

たとえば、前記 に関しては、山崎高哉・芳凱声編著『日中教育学対話』において教師教育(師範教育)についての研究的対話を行っている取り組みや日本教師教育学会と中国師範教育学会等との国際シンポジウム・研究大会の共催(2008、2011年)や日本比較教育学会、日中現代教育学会等があるが、各人の研究成果交流にとどまっている。また、日中の大学間研究交流においても同様の状況であり、個人レベルの近年の研究をみても「現代中国における地方所管師範大学・学院の改革と教員養成の変容に関する研究」(張揚、2010)等の概要的研究成果が散見されるだけである。

2. 研究の目的

教員養成教育に責任を持つ大学・学部では、

実践的指導力育成プログラムの開発を進めているが、その前提となる学校教育現場、教育委員会との対等なパートナーシップの在り方に関する構造的実証的な調査・研究は充分とはいえない。本研究では中国における東北師範大学(長春市)のでの高度実践型で専門職的な教師育成をめざすプロジェクトとの比較研究を通して、教師の養成と研修のための体系と内容・方法の在り方と教員養成・現職研修プログラムの研究・開発に取り組む。本研究により教育(実践)課題の調査研究に裏打ちされた、大学と教育委員会等の独自性と協力関係性の在り方ならびに教員養成/教師教育学研究の教育方法学的研究を促進できる。

3. 研究の方法

本研究を推進するにあたっては、1年に1-2回の研究交流を日本と中国で行い、相互の研究成果をミニシンポジウム・公開研究会で交流し、研究課題を究明した。

年2回の研究交流の間においては、小課題研究グループが電子通信及び資料送付を通して恒常的に研究交流をおこなった。

各大学等での研究交流内容は、基本的には教育実習校調査ならびに教育委員会訪問調査、研究協議(シンポジウム・公開研究会を含む)を行った。

最終年度においては、全国レベルのシンポジウムを企画し、その成果を資料集としてまとめた。

4. 研究成果

両大学内で相互に訪問調査・公開研究会、最後のシンポジウムを通して共有した研究成果を資料集としてまとめ、公表した。

本資料集は、東京学芸大学と東北師範大学との教師教育並びに教員養成プログラムに関わる共同研究の一連の成果をまとめたものである。約10年前からの両大学間の“相互理解、相互紹介”に始まり、“意見交換、研究協議”の過程で、“比較研究の視点”を抽出してきた。とりわけ、この3年間においては、近年の日本と中国における教師教育の政策並びに教師教育プログラム開発の動向を念頭におきながら、両大学が志向してきている教員養成並びに現職研修プログラムの特質と課題を追求してきた。その際の視点として、具体的な教員養成プログラム並びに教育実習の改善に関しての理論的実践的な研究課題が浮かびあがってきた。

本報告集は、これまでの研究の足跡を整理するための1つの作業として、これを基にさらなる意見交換・研究協議の進展を期待して作成した。

そもそもこの日中共同研究は、教員養成カリキュラム開発研究センターの発足(2000年4月)以降のセンターの活動の中で醸成されてきたものである。それらの経緯を経て、本研究は坂井俊樹・前センター長(研究代表)

による科学研究補助金（研究課題「高度実践型を指向する教師教育システムと内容・方法に関する実証的日中比較研究」）を得て推進してきた。

そこでは、日本の教員資質向上策においては、実践的指導力の向上が絶えず焦点の課題とされ、教員養成教育を提供する各大学で、教育実習や教育フィールド体験を含むプログラムの充実や、それに関わっての大学と学校現場や地方教育行政の連携の充実が見られる。しかし教員養成・免許制度の大幅改革が指向されている状況ではあるが、実践的指導力育成の前提となる学校教育現場、教育委員会とのパートナーシップの在り方に関する構造的な問題を研究的に析出することはいまだ充分とはいえない状況にある、という点が明らかになった。ここで言う「構造的な研究」には、現在の教育実習が教員免許取得のための1つの単位・要件であることに着目し、教員養成における教職科目領域の充実とともに、学校や地域での教育課題解決にあたっての中核となる専門職者育成（質保証）とはどうあるのかを究明することも含まれている。

本共同研究のオリジナリティは、政策・概要レベルの比較研究にとどまらず、両国の教育政策に配慮しながら自覚的に各教員養成系大学の改革と、そこに出現する課題とその克服のための考察を行うことにあり、かつ現在焦点の課題となっている「実践的指導力」「教師教育の高度化」の内実を明らかにすることを通し、両大学・両国の教師教育の進展に寄与しようとする点にある。

本資料集を基に、日中教師教育の比較共同研究をさらに推進していきたい。

なお、この資料集の項目概要を整理すると以下ようになる。

- 1) 東京学芸大学からの報告内容
日本の教育養成カリキュラムにおける実践的プログラムの動向（岩田康之）
東京学芸大学の教育実習（矢嶋昭雄）
東京学芸大学の中学・高校教育実習（矢嶋昭雄）
東京学芸大学の教科教員養成プログラム-音楽科の事例を通して-（筒石賢昭）
自立した生活者を育てる家庭科教育（大竹美登利）
- 2) 東北師範大学側報告内容
中国の教師教育改革 - 国家の政策と東北師範大学の実践（饒従満）
“U-G-S”：教師教育新モデルの設計と実施（董玉琦）
教師専門知識状況研究（馬云鵬）
小学教育専門 - 実践と研究（呂立杰）
学科基礎を強め教育実践する - 東北師範大学数学教師カリキュラム分析に基づく視点から -（韓继伟）
突出師範特色 优化课程体系（金順愛）

- 3) 日中比較研究の観点からの報告内容
中国における教員養成 - 日本人研究者の視点から（岩田康之）
日本から見た東北師範大学・UGS モデルの特徴（前原健二）
教科専門と教職専門をどう繋ぐか - 東北師範大学教師教育実験区参観と東京学芸大学の事例を基に -（三石初雄）

- 4) 日本における教員養成の今日的課題に関する考察
教員養成教育の質保証と教師教育者養成に関する諸課題（岩田康之）
日本の教員養成における実践的指導力の養成 経験と問題（三石初雄）
日本の大学における教員養成の取り組み 東海大学短期大学部を事例として（臧俐）
東京学芸大学の教育実習 中学校・高等学校における数学科教育実習についての考察 - 基礎実習を終えた学生のレポートから -（矢嶋昭雄）
日本における授業力研究の展開と現職研修の課題（前原健二）

5. 主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

- 〔雑誌論文〕(計0件)
 - 〔学会発表〕(計6件)
 - 1) 大竹 美登利、「自立した生活者を育てる家庭科教育」、日中教師教育比較研究会、2014.12.28、東北師範大学
 - 2) 前原 健二、「日本の全国学力調査における『力のある学校』の発見」、日中教師教育比較研究会、2014.12.28、東北師範大学
 - 3) 三石 初雄、「教師の熟達過程を考える - 日本の授業研究と教師の力量形成 -」、日中教師教育比較研究会、2014.12.28、東北師範大学
 - 4) 三石 初雄、「日中・中学校理科“水溶液”の内容比較研究、日本理科教育学会、2014.8.24、愛媛大学
 - 5) 坂井 俊樹、「社会科教育における高リスク社会の教材化と授業研究における実証」、東京学芸大学大学院学校教育研究科、2014.12.13、東京学芸大学
 - 6) 岩田 康之、「教師教育研究の国際化」、日本教師教育学会、2014.9.27、玉川大学
- 〔図書〕(計0件)
 - 〔産業財産権〕
 - 出願状況(計0件)
 - 〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

坂井 俊樹（東京学芸大学・教育学部・教授）

研究者番号：10186992

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

岩田 康之（東京学芸大学・教員養成カリキュラム開発研究センター・教授）

研究者番号：40334461

大竹 美登利（東京学芸大学・教育学部・教授）

研究者番号：40073564

前原 健二（東京学芸大学・教員養成カリキュラム開発研究センター・教授）

研究者番号：40222286

三石 初雄（帝京大学大学院・教職研究科・教授）

研究者番号：10157547